



LS Scholarship Fund, Japan

発行日：2021年1月25日

～ 世界の子供たちに学ぶ機会を！学ぶ喜びを！ ～

No.8

認定 NPO 法人 LS スコラ育英基金

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-25-15

Tel & Fax : 03-3428-8307

E-mail : scola_japan@yahoo.co.jp、HP : <http://scola.web.fc2.com/index.html>

郵便振替番号 : 00100-0-767496 特定非営利活動法人 LS スコラ育英基金

〈決意新たに〉

新しい年、2021年を迎えました。昨年、新型コロナウイルスに振り回された一年でした。罹患された方々に心からのお見舞いを申し上げますとともに、治療や検査に携わっておられる多くの医療関係の皆様へ深く感謝申し上げます。この新型コロナウイルスは、私たちが当たり前と思っていた常識を覆し、人と人との関係を物理的だけでなく精神的にも分断し、より社会的立場の弱い者に差別と貧困をもたらしました。未だ終息する気配は見られませんが、夜明け前の闇の向こうに希望の光があることを信じ、祈りましょう。

さて、LSスコラ育英基金のこの一年を振り返って見ますと、5月に開催された通常総会後の新体制のもと、毎月の例会及び理事会も全てリモートで行われましたが、5月には、仙台の児童養護施設から大学に進学した学生に初めて奨学金を給付しました。この学生からは「奨学金を生活必需品の購入に当て、後期からの対面授業に向けて準備している」との手紙をいただきました。また、6月には3件の支援事業のうち2件で、新型コロナウイルスの関係で困窮している東南アジア地区の青少年とその家族に対する生活環境づくりへの資金支援を、世界のラ・サールと連携して取り組みました。さらに、12月にはパプアニューギニアのテクニカルカレッジの図書館整備事業（詳細は後述）に対し、今年度分として全体の1/2に当たる資金支援を行いました。支えてくださった皆様方に改めて御礼申し上げます。他方、当法人を支援してくださっている方々の高齢化が進み、年々資金集めには工夫が必要となっており、支援者数の拡大は「認定」NPO法人の認証条件をクリアしていく上での重要な課題と認識しております。

ところで、中村前理事長時代からの懸案であったNPO法人と同窓会との関係についても、同窓会組織である「21世紀委員会」がNPO法人と組織・運営を明確に区分して、「未来委員会」として新たなスタートを切りました。NPO法人としては、同窓会組織からの独立性を保ちつつも、今後とも「聖ラ・サールの精神」（「学びたくても学べない子供等を救おう」等）と「教育」を理念に掲げ、決意も新たに活動してまいります。

なお、本年12月には認定NPO法人として5年間の「認定」期間が満了することから、引き続き「認定」認証を取得できるよう、準備してまいりますので、皆様方のご支援を是非ともよろしくお願い申し上げます。 (理事長 宇野哲人)

1. 上期に支援した事業のその後

(1) 国内の養護施設出身の大学進学者

【昨年5月に36万円（入学一時金+奨学金上期分）支給】

上期はコロナの影響でオンライン授業だったそうですが、10月の下期からは通常授業となり頑張っているそうです。

経済的には、①大学の入学金と授業料の免除、②日本学生支援機構による奨学給付金、③宮城県社会福祉協議会による自立支援貸付金、④アルバイトの収入でやりくりしているとのこと。

社会福祉協議会の自立支援貸付制度については、返済義務のあることが気になりましたが、大学卒業後5年間の返済猶予があり、卒業後5年間継続して就労(転職・就職活動も含む)すれば返済の必要がない制度だそうです。

(2) ベトナムの貧しい学生に対する高等教育継続のための育英資金

【昨年6月に4,243ドル（460,621円）支援】

ベトナムのタンフンチャリティースクール：ベトナムのタンフンチャリティースクール（小学校）の出身で、向学心にあふれ中学・高校・大学の高等教育をめざす57人の卒業生に学費を支援し、彼らの学び続ける「夢」を応援しました。

(3) コロナで生活が困窮したカンボジアとベトナムの学生とその家族に対する食糧支援

【昨年6月に計13,925ドル（1,511,704円）支援】

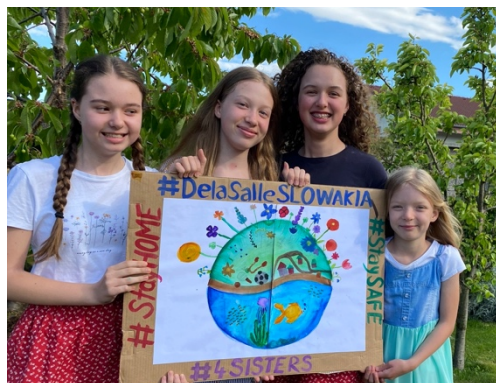


①カンボジアのポウテムム校への食糧支援：ポウテムム校（貧しい学生のための無料の学校）への食糧支援（家族100名に対する食糧支援、生徒40名の学校での昼食支援）(9,975ドル)



②ベトナムのタンフンチャリティースクールへの食糧支援：タンフンチャリティースクール在校生等142人への食糧支援や衛生用品購入支援（3,950ドル）

(4) コロナに係るラ・サール会全体の取組み感謝状



2. 下期に既に支援した事業

- (1) 国内の養護施設出身者の大学進学者

【昨年 10 月に 6 万円 (奨学金下期分)】

- (2) パプアニューギニアの能力開発センターの施設拡充

【昨年 12 月に 15,000 ドル支援】

(場所)：パプアニューギニア ポートモレスビー (首都) のホホラ地区にあるラ・サールテクニカルカレッジ

(内容)：中等学校に入学できなかった若者に学術及び貿易訓練の機会を提供するために設立されたホホラ青少年育成センターの受講者急増に対応するため、既存の図書館を拡張および改修して、学生の教育へのアクセスを増やす整備事業

(対象者)：680 名 (支援額)：1,575 千円 (USD \$15,000)

総事業費は 3 万ドルだが、2020 年度下期に 1.5 万ドル、2021 年度上期に 1.5 万ドル支援することで合意されている。



3. 下期に支援予定だったが中止する事業

- (1) 仙台ラ・サール・ホーム在籍で、今春大学進学予定の者に入学一時金 (30 万円) を計上していましたが、聞き取りの結果支援は特に必要ないとのことなので支援は取止めることとなりました。

- (2) 留学生等を対象にした「ふじのくに留学生ツアー」事業の諸経費のうちバス代等の一部 10 万円を過去 2 回支援してきましたが、今年はコロナの影響でツアーが中止となるため支援は不要となりました。

4. 年末のクリスマスメッセージと新年のカード

ローマから私たちの支援活動に対して、以下のクリスマスカードと新年のカードが送られてきました。

『NPO LS スコラ育英基金委員会の理事の皆さんと、ラ・サールの恵まれない子どもたちへの教育を推し進めるために様々な困難があったにも関わらず支援して下さいたことに、心から感謝致します。あなた方のお陰で、コロナで生活まで脅かされた人々に質の高い教育を保証することが出来ました。

ラ・サール国際連帯基金の事務局全員を代表して、皆さんにメリークリスマスと健やかで幸せな新しい年を迎えられますよう願っています。』



New Year's greetings to the Board of the NPO



「4 Quality education」とは2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指す国際目標（SDGs）のうち4番目の「質の高い教育をみんなに」とリンクした活動であることを表しています。

<事務局からのお知らせ>

- ・ 当基金で昨年1年間にお預かりした寄付金の総額は、161名で278万円（前年比+2名、△10万円）でした。寄付いただいた皆様に心から御礼申し上げます。なお、寄付金控除などの税優遇措置を受けるためには、原則当基金が発行する受領証明書（領収書）を添付して確定申告していただく必要があります。
- ・ この税優遇措置を受けることの出来るNPO法人は都道府県等所轄庁の「認定」を受ける必要がありますが、認証されているNPO法人は全国で51,040件、うち「認定」を受けている「認定NPO法人」は、1,181件（2020年11月末現在）で、全体のわずか2.3%にすぎず、「認定」取得は狭き門となっております。ちなみに、基準の判定に当たっては3,000円以上の寄付者の数が年平均100人以上であることが求められています（「絶対値基準」選択の場合）。
- ・ また、「認定」の有効期間は5年間ですが、当基金は本年12月25日に期間満了を迎えるため、6カ月前から更新のための厳格な審査を受ける必要があります。
- ・ 2020年1月1日～12月31日の寄付金については、受領証明書を1月下旬ごろに郵送しています。証明書はご寄付の際にお知らせいただいたお名前宛に発行しますが、受領証明書に疑義がある場合、住所変更が発生した場合、今後の寄付額に増減希望のある場合などは、事務局まで電話、Fax、Eメールにてご連絡ください。

（理事・事務局 黒木秀敏）

（編集・印刷 事務局 紺野晃則）